

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770103012	
法人名	有限会社 博永興産	
事業所名	グループホーム オアシス香西	
所在地	香川県高松市檀紙町1452番地1	
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 14 日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3770103012-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 12 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・コロナ禍で現在は、開催できていないが、運営推進会議の方々や地域の方々のご協力により開催している、打ち込みうどんが好評を得ている。家族会開催時には、ご家族様の参加も増えており、利用者様、ご家族様、職員とのコミュニケーションを図る良い機会となっている。新しい地域資源の発見に努め、利用者様個々の要望に沿ったサービスの提供にも努めている。地域行事への参加も定着しており、地域の方々との交流も深まり、認知度も高まってきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域貢献を目指したい」という医師の気持ちから設立したグループホームで、職員も地域に溶け込んでいる。また、遠い昔を懐かしむ風景を和の昔と洋の現在の2ユニットで眺め、施設内においても今昔に触れ、昔と今に足を踏み入れたように暮らしている。また、タイムスリップするユニットを歩き来した後、利用者も居室にノックすると、ほんわりもったりと平静さを醸し出し、現実の世界に戻る。たまたまクリスマスイブが評価日で、給食もクリスマスソングを流しながら骨付き鶏をばくつく光景を目の当たりにした。また、家族から「生前の写真を頂きたい」との意見から、利用者の写真を集めたアルバムに全員のメッセージを添えると、偲びのカンファレンスの一つとなり、今までなかった表情の写真が手に取れ、家族の宝物となった。そんな地域に愛され、人に愛された時代の流れを表現している施設だった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて、ユニット目標を設定し、会議や日常業務を通して、達成度及び改善点について話し合いを行い、毎朝朝礼時に理念を唱和する事で意識づけをし、実践に繋げている。	理念と年度目標を各ユニットと事務所と申送りのノートに掲示しており、毎朝唱和している。理念は、元利用者が手書きし、理念の浸透を目的に、毎月ユニット会議を行い、新入職者には、2週間の研修で先輩が同行ケアをする。日々のケアで異方向性の出来事を、その都度修正しやすい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業所イベントへのご招待や地域でのイベントはできなかった。年6回広報誌を発行し、関係各所に配布している。	施設がなかったこの地に、地域貢献として建てた施設で、住み慣れた所で暮らし続けて欲しいとの社長の願い通り、入居者も地域の方が多く、利用者同士も知り合いが多い。また、運営推進会議のメンバーも元から利用者を知っている関係で、今でも、地域との付き合いが続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で認知症についての勉強会を開催し、理解度を深めると共に、地域の方々から相談を受けたり、必要時にはアドバイスも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、施設内での開催ができていない。	書面にて隔月の開催を続けている。メンバーは、市出張所・コミュニティーセンター・介護保険課・本人・家族・農協・地域住民の代表・民生委員。近所の方が多く、道端やスーパーや受診介助の時などに、ぱったり出くわし、開催前後の良い情報交換の機会に自然となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時には相談にも応じて頂き、協力関係を築けるように取り組んでいる。	窓口は、各ユニットの管理者で、電話をかけたり、直接窓口へ出向いており、何でも話せる関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、マニュアルの作成・定期的な委員会の開催をしている。また、研修や勉強会等で得られた内容を、職員間で共有し、理解した上で、日々取り組んでいる。	身体拘束はしていない。委員会は、年4回開催している。多職種で構成されており、座学～考察～「だから、今後はどうしていきたいのか？」とセルフマネジメント出来る仕組みを取っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内にて定期的に勉強会を開催し、内容を共有している。また、日々の暮らしの中に置いても、利用者様の状態や様子に変化がないか観察し、早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度について、研修等で得られた内容を共有し、必要時にいつでも活用し、支援出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安点や疑問点については、その都度十分にご説明を行い、改定がある場合は改定になる内容について、説明を行い、ご理解・ご納得頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は、設置しているが新型コロナウイルス感染症拡大防止のために面会を控えて頂いており活用出来ていない。電話等で得られた家族様の意見は、職員間で話し合い、業務内容やケアプランの内容に反映させている。	利用者の状態が低下したご家族から、他者との関わりを持たせてほしいとの意見に、出来るだけホールに誘導し関係性が継続できる様にプランに明文化して取り組み、家族に経過を報告したり、感染予防の観点から、実習生の受け入れの可否を意見交換し、個別の関わり方を工夫した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社長会議やユニット内での申し送りに加え、個別での面談や申し送りノートの活用、日常の業務内にて出た意見に対しても、耳を傾け、柔軟な対応が出来るよう心掛けている。	申送り時や会議でシフト繰りがスムーズに出来ている。職員は、管理者との個人面談が年に1～2回実施している。プライベートの相談は、その時間を問わず、いつでも出来る風土となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別での面談を行うなど個々の職員の考えや意見に耳を傾け、必要時には資格取得支援を通して、向上心を持って働ける環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、計画的に参加し、得られた技術や知識について、会議の場で発表し、内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、近隣施設とのイベント交流の開催はできていないが、研修に参加した際に意見交換を図り、得られた内容を活かして、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会時のご本人様の言動や振る舞い等から、汲み取り、ご家族様より生活歴やご要望をお聞きし、ご本人様の安心を確保できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安点や疑問点をお聞きし、十分に説明した上で、ご理解していただいた上で納得していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様等が現在必要としているニーズをつかみ、サービス内容に反映出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の言動や振る舞い等から、意向や要望を汲み取り、内容を活かすことで、暮らしを共にする者同士としての関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、近況報告を行い、ご家族様より気軽に要望を話して頂ける雰囲気作りに努め、必要時には協力して頂ける関係を築いていけるように努めている。また、ご家族へご利用者の日常の様子のお写真をお送りしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施ができていないが、定期的に近隣のカフェへでかけたり、近隣を散歩することにより、馴染みの人から面会の機会を作って頂き、交流が図れるように努めている。	入居者は地域の方が多く、利用者同士の知り合いが多い。元の運営推進会議のメンバーや出入り業者とも馴染みの関係となっている。通院のついでに実家で昼食を摂って、個人洋品店で買い物をし、近所のグループ法人との行き来もする。道中のドライブコースが馴染みとなっている。	リアルなものを再現したり、新しい馴染みを作ってみては、如何でしょうか？
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者様同士が過ごせるような配慮に心掛け、レクリエーション等を通じて関わり合い、交流が図れるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時にお聞きした要望に加えて、日々の暮らしの中での言動や仕草、会話等で希望や意向を把握するように努め、ケアプランに反映している。	雑談で、畑作業をしたい方に「どうすれば実現できるかな」と家族も巻き込んでいる。パーソナルな時間を大切に、入浴・排泄・夜勤・コール対応の時など、時には手を握り、肩をさすり、よく話を聞いて、意向を把握している。意思を表明しにくい方には、そっと肌に触れ、単語からヒントを得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やライフスタイルについて、日々の暮らしより汲み取り、反映出来るように努め、ご家族様からもお聞きし、把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを通じて、現状の把握を行った上で、職員間で話し合いを密にし、一人ひとりがご自分のペースで過ごして頂けるように、ご利用者の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの様子や振る舞い、モニタリングシートの活用を通じて、課題や改善点を抽出し、カンファレンスにて話し合い、現状に即したケアプランの作成に努めている。	入居時に、利用者家族と立てたプランを1週間で見直し、本プランとしている。3ヶ月毎のモニタリング期間で、必要に応じてプラン変更をしている。プランの作成過程で、医師や看護師、多職種の意見を網羅しプランに盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録内に、日々の様子、健康状態、排泄状況、食事の摂取状況を記録し、内容を職員間で共有し、改善点等は見直し、ケアプランに反映出来るように活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況に合わせて、ご家族様からの要望をお聞きし、何が必要かその都度話し合いをしている。出来る限り個人に合わせた対応の実現に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域関係者やボランティア等の協力を得たり、必要に応じて、基本的な事だけでなく、新しい情報を得ることができる様にしている。得られた情報をご利用者やご家族に伝えることができる様に努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様が希望する医療機関等の受診の際は、情報提供を行い、その後の指示や説明を受けている。また、定期的な協力医院での受診も可能であり、訪問歯科も行っている。	入居時に、かかりつけ医を選べるが、殆どの方が母体の法人医を選ぶ。母体法人は往診在りで、他科は、家族が通院を介助する。歯科は、週1回訪問する。どの医療従事者とも親しく意見交換しやすい関係が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察や記録に基づき、情報交換を行い、必要時には早期に適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時より、病院関係者、ご本人様、ご家族様との話し合いを通じ、情報交換を行い、病院関係社との信頼関係を構築するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針については、入居時にご家族様にご説明し、ご理解頂いた上で、状態変化に応じて、話し合いを行った上で、医師やご家族様や職員からの希望・要望を聞いた上で、ニーズに合った形での対応に努めている。	看取りを行っている。看取りの方の割合の方が多い。看取り研修の一環として、看取りした方のアルバムを作って家族にお渡しする事で、葬儀業者からお返しの際に流したビデオレターを贈って下さるプロセスが、職員のモチベーションやスキルアップに活かされている。エピソードトークをされる管理者の瞳に滲ませた涙が印象深かった。	素晴らしい看取りの取り組みをされているから、そのまま収まらずに、年間計画に更に反映させては如何でしょうか？
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故発生時のマニュアルを作成し、各職員が対応できるようにしている。また、定期的に見直しを行い、応急手当や初期対応に関する指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成。避難訓練を年2回行っており、夜間を想定した訓練も行っている。また、運営推進会議の書面を通じて、必要時、協力を得られるように働きかけをしている。	火災の訓練を昼夜想定で、年2回、利用者と一緒に、マニュアルを元に行う。携帯電話で緊急連絡網を敷いている。備蓄は厨房業者に依頼して、水・食料・衛生材料等が、1週間用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した形での声掛けや言葉使い、介助時の環境への配慮やプライバシーの確保に努めている。	呼称は、苗字に「さん」を付ける。ご夫婦には「お父さん」「お母さん」と呼びしたり、愛称で呼んで欲しいとのリクエストには、必ず家族の了承を得ている。入室時にはノックと言葉かけをし、肌を露出しやすい場面では、バスタオルで隠して、扉を閉めて羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様と密にコミュニケーションを図り、日々の関わりの中で、ご自分の考えや想いを自由に表出できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人ひとりの生活リズムにあった形の暮らしの場を提供し、充実感のある生活を送って頂けるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みやご家族様の意向に応じて、個別に対応している。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため利用していないが、必要時、訪問理容・訪問美容等も利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者様に出来る範囲協力して頂き、食事中は、食事の味だけでなく、会話も楽しみながら召し上がって頂いている。	朝がケータリング・昼と夜とおやつが手作り。利用者と一緒に準備や下膳、プランターの野菜の収穫や下処理を楽しんでいる。行事食は毎月『ご当地メニュー』が提供され、クリスマスなので、クリスマスソングの流れる中、骨付き鶏もも肉を、丸かじりして頬張る利用者の様子が印象に残った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者の管理栄養士の協力を得て、食事カロリーやバランスは確保出来ている。食事や水分の量に関しては、状態に合わせて必要量摂取頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科治療や口腔ケアを受けたり、毎食後の歯磨きの見守りや介助を行い、義歯・口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、出来る限りトイレでの排泄の支援を行っている。また、羞恥心やプライバシーへの配慮した声掛け誘導を行っている。	機能の維持・改善に貢献するためにデータや習慣（食事前後・パターン）や表情を見て、様子が窺えたら即座に傍に駆けつけて、可能な限りトイレで排泄出来る様に促している。退院後の方で頻度の多い方の機能改善は、安眠を優先し、家族と意見交換をし、ポータブルトイレを導入している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、食事形態の工夫や適度の運動を働きかけ、便秘の予防、自然排便を促せるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	生活習慣に合わせ、出来る限り希望通りの入浴を提供している。また、汚染時等の場合は清潔保持の観点から、柔軟に対応出来るよう努めている。	入浴は、週2～3回。要望があれば、毎日でも可。お湯は一人一人毎回入れ替える。入浴剤や柚子や菖蒲、時にはバラ風呂も提供される。嫌がる方には、日や人を変えたり、異性介助にしたりして、出来るだけ気分良く入浴出来る様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、生活リズムが確保出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に添付し、ミーティング・カンファレンス等で内容を確認、必要時看護職員に相談しながら支援している。定期的に医療機関へ報告し、見直しを検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	壁画や書道等の作品作り、おやつ作りや園芸・読書等を通じ、気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や気候状況を考慮し、ご家族様や地域の方々との協力を得ながら、気分転換が図れるよう支援に努めている。施設周辺の散歩やベランダでの外気浴は、天候や時間帯を考慮しながら随時実施している。	散歩は、天候や調子さえ良ければ、毎日でも出向く。広く開放的なテラスも活用して、菜園や手入れに足を延ばす事も日常であるが、両ユニット間を行き来することで、今昔を感じ、外出と同じ気持ちに近づけることで、居室と居室外とのメリハリを付け、気分的に落ち着ける雰囲気である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様には、いつでも買い物ができるよう、出納帳を作成し、ご家族様に確認して頂く対応に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	必要時には手紙を書いて頂いたり、職員が代筆を行ったり、電話を利用出来るよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目の行き届いた共有空間内で、快適でゆったりした空間を過ごして頂けるよう配慮し、書道や壁画の作品を掲示し、季節感を味わって頂けるよう工夫している。また、ベランダでは季節の花や野菜を育て、ご利用者と共に水やりや手入れを行なっている。	柔らかな日差しが満遍なくフロアに射し、利用者と共に作った制作物が飾られ、遠くから見ても完成度の高さが窺えた。利用者は穏やかな表情をもち、利用者の間を職員が穏やかな表情と歩みで行き来され、柔らかな雰囲気作りが自然に出来ている様に感じられた。世代間で楽しめるゲームの『太鼓の達人』が今でも現役で設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間内にいくつかのスペースを設け、ご利用者様が思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様の要望を出来る限り反映した形で、使い慣れた家具や生活用品、趣味の小物等を使用させて頂いている。また、安心感のある場所となるような環境整備にも努めている。	洋風と和風のユニットに分かれており、利用者の生活歴に合わせられる。和の方には、畳敷きの居室もある。どちらも介護ベッド・エアコン・カーテンが備え付けで、利用者は家族や職員と楽しめる。壁や箆笥の上には、家族写真や制作物等が思い思いのセンスで飾られていて、居心地が良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子対応トイレや廊下・浴室等に手すりを設置し、一人ひとりに合った補助具の活用している。居室内のベッド・家具の配置は、個々の状況・好みに合わせて配置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770103012
法人名	有限会社 博永興産
事業所名	グループホーム オアシス香西
所在地	香川県高松市檀紙町1452番地1
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 14 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3770103012-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 12 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・コロナ禍で現在は、開催できていないが、運営推進会議の方々や地域の方々のご協力により開催している、打ち込みうどんが好評を得ている。家族会開催時には、ご家族様の参加も増えており、利用者様、ご家族様、職員とのコミュニケーションを図る良い機会となっている。新しい地域資源の発見に努め、利用者様個々の要望に沿ったサービスの提供にも努めている。地域行事への参加も定着しており、地域の方々との交流も深まり、認知度も高まってきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域貢献を目指したい」という医師の気持ちから設立したグループホームで、職員も地域に溶け込んでいる。また、遠い昔を懐かしむ風景を和の昔と洋の現在の2ユニットで眺め、施設内においても今昔に触れ、昔と今に足を踏み入れたように暮らしている。また、タイムスリップするユニットを歩き来した後、利用者も居室にノックすると、ほんわりもったりと平静さを醸し出し、現実の世界に戻る。たまたまクリスマスイブが評価日で、給食もクリスマスソングを流しながら骨付き鶏をばくつく光景を目の当たりにした。また、家族から「生前の写真を頂きたい」との意見から、利用者の写真を集めたアルバムに全員のメッセージを添えると、偲びのカンファレンスの一つとなり、今までなかった表情の写真が手に取れ、家族の宝物となった。そんな地域に愛され、人に愛された時代の流れを表現している施設だった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目の付くところに理念を掲示したり、申し送り時に、理念の唱和をし、意識づけを行い、理念についての理解を深めるための場を設け、日々のサービス提供に繋げることができるよう努めている。	理念と年度目標を各ユニットと事務所と申送りのノートに掲示しており、毎朝唱和している。理念は、元利用者が手書きし、理念の浸透を目的に、毎月ユニット会議を行い、新入職者には、2週間の研修で先輩が同行ケアをする。日々のケアで異方向性の出来事を、その都度修正しやすい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は、地域イベントへの積極的な参加、地元スーパーや飲食店、学校等の地域資源を利用する事で、地域の方々との交流を図っていた。	施設がなかったこの地に、地域貢献として建てた施設で、住み慣れた所で暮らし続けて欲しいとの社長の願い通り、入居者も地域の方が多く、利用者同士も知り合いが多い。また、運営推進会議のメンバーも元から利用者を知っている関係で、今でも、地域との付き合いが続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で、認知症についての勉強会を開催し、認知症についての理解を深めると共に、地域の方々からの相談等に対し、助言や提案が行えるよう対応している。現在は、書面での開催となっているが、運営推進会議開催時には、参加者からの相談や質問に対して、助言や説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期開催していたが、新型コロナウイルス感染症予防のため、現在は、書面での開催となっている。書面にて、提供しているサービス内容や取り組み、現状報告を行っている。	書面にて隔月の開催を続けている。メンバーは、市出張所・コミュニティーセンター・介護保険課・本人・家族・農協・地域住民の代表・民生委員。近所の方が多く、道端やスーパーや受診介助の時などに、ぱったり出くわし、開催前後の良い情報交換の機会に自然となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時、情報交換を行っていた。また、必要時には、相談や質問をし、助言を頂き提供するサービスの改善、向上に努めている。	窓口は、各ユニットの管理者で、電話をかけたり、直接窓口へ出向いており、何でも話せる関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しており、定期的な現状確認や、テーマに沿った議題や事例検討にて勉強会や意見交換を行っている。委員会で話し合った内容は、職員間で周知、共有し、実践を行っている。	身体拘束はしていない。委員会は、年4回開催している。多職種で構成されており、座学～考察～「だから、今後はどうしていきたいのか？」とセルフマネジメント出来る仕組みを取っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を開催し、虐待防止についての理解を深めるとともに、日々の生活の中においても、観察し、職員間で意見交換や指摘をしあい、早期発見、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、必要に応じて活用出来る様、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書等で内容について説明を行い、理解・納得を図り、同意を得ている。不安点・疑問点がある場合は、その都度、説明を行っている。重要事項説明書の内容について変更がある場合には、口頭及び、書面にて説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置していたが、現在、新型コロナウイルス感染症予防のため、面会は控えていただいております。意見箱の活用は行えていない。利用者様の意見・要望は日々の生活の中で聞き取り、家族等からは、来所時や電話等で意見・要望等をお聞きしている。	利用者の状態が低下したご家族から、他者との関わりを持たせてほしいとの意見に、出来るだけホールに誘導し関係性が継続できる様にプランに明文化して取り組み、家族に経過を報告したり、感染予防の観点から、実習生の受け入れの可否を意見交換し、個別の関わり方を工夫した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や申し送りノート、各ユニットでのミーティングや連絡ノートの活用により、各職員から、意見や提案を聞き業務の円滑化を図っている。	申送り時や会議でシフト繰りがスムーズに出来ている。職員は、管理者との個人面談が年に1～2回実施している。プライベートの相談は、その時間を問わず、いつでも出来る風土となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の意見・考えを聞き、向上心や、やりがいを持って働けるよう努めている。また、資格取得に向け職員個々に支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて、計画的に研修等に参加し、介護技術や知識を学び、全職員に会議やミーティング時に、伝達し、情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問事業、研修等で知り合った施設との意見交換を行ったり、来訪・訪問時には、職員間での取り組み等の意見交換を行っていたが、新型コロナウイルス感染症予防のため、現在は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、言動・仕草から要望を汲み取る。また、ご家族様から、生活歴や生活習慣を取得し、これまでの生活と大きな変化が生じず、安心してご利用して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より、ご家族様のおかれている状況を把握し、理解した上で、適切なサービスが導入出来る様、十分な相談時間を設けている。不安な事や質問に対し、納得し、安心して頂けるよう、丁寧な説明に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様との相談時に、一番何が必要かを見極め、要望をもとに、多職種と連携を図り、出来る限りの対応や提案に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が生活を共にする家族の一員として気兼ねなく話せる関係性の構築や日常生活の中で役割を持って頂き、互いに協力しあえる関係性を築くことに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や、必要時には電話で現状報告を行っている。ご家族様からの要望や気になる事は、気兼ねなく伝えて頂けるような関係作りに努め、必要に応じ、ご家族様の協力を仰ぎ、共に利用者様を支援できるよう働きかけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防のため、面会や馴染みのある場所への外出は控えているが、必要時には、電話等で話ができるよう支援している。	入居者は地域の方が多く、利用者同士の知り合いが多い。元の運営推進会議のメンバーや出入り業者とも馴染みの関係となっている。通院のついでに実家で昼食を摂って、個人洋品店で買い物をして、近所のグループ法人との行き来もする。道中のドライブコースが馴染みとなっている。	リアルなものを再現したり、新しい馴染みを作ってみては、如何でしょうか？
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、利用者様同士の関係性を把握し、利用者様同士が、交流できる環境の整備や、必要時には、職員が間に入ることで、良好な関係が維持出来るように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、福祉用具や利用できるサービス等の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様より意向をお聞きしたり、日常生活の中での言動や生活歴にも重視する事により、内面的な希望・意向を汲み取ることが出来る様、努めている。	雑談で、畑作業をしたい方に「どうすれば実現できるかな」と家族も巻き込んでいる。パーソナルな時間を大切に、入浴・排泄・夜勤・コール対応の時など、時には手を握り、肩をさすり、よく話を聞いて、意向を把握している。意思を表明しにくい方には、そっと肌に触れ、単語からヒントを得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣が継続出来る様、ご本人様やご家族様に生活歴をお聞きしたり、日々のコミュニケーションの中での情報収集を行う事で、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや、カンファレンス等で、さまざまな目線での利用者様現状の確認を行い、できる事、できない事の見極めをし、今出来る事が継続して行えるよう、意見を出し合い、ご本人様の無理の無いペースで生活出来るような支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様が日常生活を送る中で、職員が気付いた事や、ご本人様、ご家族様の意向を基にカンファレンスを行い、個人の具体的な短期目標の設定や、ケアプランの立案となるよう努めている。	入居時に、利用者家族と立てたプランを1週間で見直し、本プランとしている。3ヶ月毎のモニタリング期間で、必要に応じてプラン変更をしている。プランの作成過程で、医師や看護師、多職種の意見を網羅しプランに盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、日々の生活状況や健康状態等を記録し、職員全員が情報を共有している。個人記録をもとに、利用者様個々にあったケアの実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の要望に応じ、職員間で意見交換を行い、その時々に必要な支援を職員間、ご家族様との連携を図り柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、現状は、外出等行えておらず、地域資源との協働は行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が希望される医療機関等の受診の際には、必要な情報提供を行い、受診後の指示や説明を受けている。また、協力病院での受診や定期的な往診も可能となっている。希望される方には、歯科医師・歯科衛生士による訪問受診も行っている。	入居時に、かかりつけ医を選べるが、殆どの方が母体の法人医を選ぶ。母体法人は往診在りで、他科は、家族が通院を介助する。歯科は、週1回訪問する。どの医療従事者とも親しく意見交換しやすい関係が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日々の状態観察、記録等を基に情報交換を行い、助言を頂いたり、病気の早期発見、早期対応に努めている。日々の関わり合いの中で気づいたことは、すぐに報告、相談することで、早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時より、病院関係者、ご本人様、ご家族様と話し合い、必要時には情報交換を行い、支援に努めている。柔軟に対応出来る体制作りを心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針については、入居時にご家族様に説明し同意を得ている。状態変化に応じて、医師、ご家族様、職員での話し合いの場を設け、ご家族様の希望や要望を聞き入れながら、チームとしてどこまで対応できるかを見極め、出来る限り個々のニーズに沿った対応に努めている。	看取りを行っている。看取りの方の割合の方が多い。看取り研修の一環として、看取りした方のアルバムを作って家族にお渡しする事で、葬儀業者からお返しの際に流したビデオレターを贈って下さるプロセスが、職員のモチベーションやスキルアップに活かされている。エピソードトークをされる管理者の瞳に滲ませた涙が印象深かった。	素晴らしい看取りの取り組みをされているから、そのまま収まらずに、年間計画に更に反映させては如何でしょうか？
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師、看護職員から指導を受けたり、看護師による勉強会の開催、特変時のマニュアルを作成し、活用している。AEDの使用法の講習会も開催しており、迅速な初期対応の実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施している。夜間を想定しての訓練を行っており、近隣職員順の連絡網も作成している。また、運営推進会議を通じ、地域の方々の参加・協力も呼び掛けている。	火災の訓練を昼夜想定で、年2回、利用者と一緒に、マニュアルを元に行う。携帯電話で緊急連絡網を敷いている。備蓄は厨房業者に依頼して、水・食料・衛生材料等が、1週間用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、寄り添い、話を傾聴し、笑顔で無理強いのない言葉かけや、介助時の環境の配慮を行い、個人のプライバシーの確保に努めている。	呼称は、苗字に「さん」を付ける。ご夫婦には「お父さん」「お母さん」とお呼びしたり、愛称で呼んで欲しいとのリクエストには、必ず家族の了承を得ている。入室時にはノックと言葉かけをし、肌を露出しやすい場面では、バスタオルで隠して、扉を閉めて羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いを気兼ねなく言える関係性の構築や環境作りに努めると共に、日常生活の中での何気ない言葉の中にある利用者様の思いや希望を汲み取り、利用者様自身が、自分の意思で動作・決定が出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりにあった生活リズムを見出し、その方らしい生活が送れる様に暮らしの場を提供し、日常の中で力が発揮でき、充実した生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床時には、整容の声掛けを行い、出来ないことは、援助している。翌日に着替えられる衣類の準備を利用者様と一緒にすることで、その人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は気の合う利用者様同士、または職員と共に会話をしながら楽しく食事をして頂いている。利用者様一人ひとり、食べやすい形態での提供、できることへの参加を促している。	朝がケータリング・昼と夜とおやつが手作り。利用者さんと準備や下膳、プランターの野菜の収穫や下処理を一緒に楽しんでいる。行事食は毎月『ご当地メニュー』が提供され、クリスマスなので、クリスマスソングの流れる中、骨付き鶏もも肉を、丸かじりして頬張る利用者の様子が印象に残った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者の栄養士の協力を得て、食事カロリー・バランスは確保できている。また、食事量・水分量については個別に記録し、把握出来るようにし、利用者様個々に食事量・食事形態の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ・見守り介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。定期的な訪問歯科の利用により専門的な口腔ケアや口腔環境の確認を行い、助言を頂いている。義歯を使用されている方は、夜間に義歯洗浄を行っており清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、利用者様の羞恥心や自尊心を傷つけないような声掛けにて誘導を行いトイレでの排泄が継続して行えるよう支援している。	機能の維持・改善に貢献するためにデータや習慣（食事前後・パターン）や表情を見て、様子が窺えたら即座に傍に駆けつけて、可能な限りトイレで排泄出来る様に促している。退院後の方で頻度の多い方の機能改善は、安眠を優先し、家族と意見交換をし、ポータブルトイレを導入している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の体質や状態に合わせ、乳製品の提供や食事形態の工夫、適度な運動を働きかけ便秘予防に努め、自然排便を促せるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は、施設で決めてしまっているところはあるが、入浴の意思決定は、利用者様に行っていたい。拒否された場合は、翌日に再度声掛けを行うことで、入浴につなげている。入浴時には、入浴補助具を使用し、利用者様が安全に楽に入浴が出来るよう努めている。ご本人様の体調を考慮し、無理強いのない声掛けを行い、希望に沿った支援にて清潔保持に努めている。	入浴は、週2～3回。要望があれば、毎日でも可。お湯は一人一人毎回入れ替える。入浴剤や柚子や菖蒲、時にはバラ風呂も提供される。嫌がる方には、日や人を変えたり、異性介助にしたりして、出来るだけ気分良く入浴出来る様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様のその時々体調に合わせて、休息時間の確保や、夜間に、ゆっくりと睡眠がとれる様に、生活リズムの調整や睡眠時には、空調管理等を行い、ゆっくりと休める環境の確保を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に、服薬中の薬の情報を貼付しており、目的や副作用の確認を行っている。医師・看護職員に相談し、指示を仰ぎながら支援している。医療機関・薬局と連携を図り症状・状態について、定期的に報告・相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・洗濯干し等のお手伝いや、壁画作り等の作品作り、個人の趣味を通じ、本人様の力を発揮する事が出来、楽しみや達成感を感じて頂けるような場面の提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、現状は、外出等行っていない。	散歩は、天候や調子さえ良ければ、毎日でも出向く。広く開放的なテラスも活用して、菜園や手入れに足を延ばす事も日常であるが、両ユニット間を歩き来することで、今昔を感じ、外出と同じ気持ちに近づけることで、居室と居室外とのメリハリを付け、気分的に落ち着ける雰囲気である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様希望にて、いつでも買い物ができるよう支援している。お小遣い出納帳を作成し、ご家族様に提示・確認して頂き理解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族様に連絡可能時間を確認し、必要時や希望時には電話を利用して頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、利用者様の作品や写真を展示する等工夫している。快適でゆったりとした時間が過ごせるように空調管理や生活環境の整備に努めている。利用者様が利用しやすいように、家具等の配置を考慮し状況に合わせ柔軟な対応している。	柔らかな日差しが満遍なくフロアに射し、利用者と共に作った制作物が飾られ、遠くから見ても完成度の高さが窺えた。利用者は穏やかな表情をもち、利用者の間を職員が穏やかな表情と歩みで行き来され、柔らかな雰囲気作りが自然に出来ている様に感じられた。世代間で楽しめるゲームの『太鼓の達人』が今でも現役で設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはいくつかのスペースを設けており、利用者様が思い思いに気の合った利用者様と過ごす事が出来るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様・ご家族様の意向を出来る限り反映し、使い慣れた家具や生活用品、趣味の小物等を置き、安心して穏やかに生活が送れるように環境整備に努めている。	洋風と和風のユニットに分かれており、利用者の生活歴に合わせられる。和の方には、畳敷きの居室もある。どちらも介護ベッド・エアコン・カーテンが備え付けで、利用者は家族や職員と楽しめる。壁や箆笥の上には、家族写真や制作物等が思い思いのセンスで飾られていて、居心地が良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子対応トイレや廊下、浴室等に手すりを設置している。個々に適した補助具の使用や、安全に移動出来るよう、動線の確保を行っている。また、トイレの場所が分かるよう、大きな字での案内書きををしたり、使用中であるかどうかの確認表示を設置している。		